

## 2014年 総合生活改善についての談話

### 1. 自動車総連全体の取り組み経過について

○自動車産業は、リーマンショック以降の度重なる危機に対し、完成車メーカーのみならず、車体・部品製造、販売・サービス、輸送など、様々な業種で働く組合員一人一人が血の滲むような努力によって労働の質を高め、企業体質の着実な転換を図ってきた。そうした中、今次総合生活改善においては、自動車産業が今後も健全に発展していくためには、国内事業基盤の維持・強化が不可欠であり、「その競争力の源泉たる人への投資を強く求める」さらに、日本経済を長期化するデフレから脱却させ、経済成長と所得向上を同時に推し進めていくためにも、「全員で、月例賃金で、底上げを図る事が重要である」との認識を共有した上で、各単組が職場と徹底的に話し合い、「確固たる根拠」と「強いこだわり」を込めた自らの要求を構築し、自動車総連全体で1,027単組が賃金改善分を要求した。

また、一時金についても、多くの単組が昨年要求実績以上の要求を行うとともに、ワーク・ライフ・バランス実現の観点から長時間労働の是正にむけた、総実労働時間短縮・働き方改革についても労使協議を進めている。あわせて、同じ職場で働く仲間である非正規労働者の処遇改善や意欲・活力向上のために、幅広い項目に取り組んでいる。

○2月12日(水)の拡大戦術会議登録12組合の要求書提出以降、「企業競争力の礎である人への投資の重要性」は勿論のこと、「賃金格差の実態に基づく体系是正の重要性」、「業種や企業規模などの違いにかかわらず賃金水準の“底上げ”を図る必要性」など、本年の要求に込めた思いや組合員の期待、そして日本経済の牽引役たる自動車産業労使が果たすべき役割を精一杯主張し、交渉を追い上げてきた。

○一方、経営側はこれまでの組合員の協力や頑張り感謝の意を示し、日本経済の好循環にむけた努力は労使共通の思いとしながらも、「収益体質がぜい弱な中で、実力値を超えた大幅な賃金引き上げは企業の存続を脅かしかねない」「新興国経済の減速感は重大なリスク要因」「4月以降の消費税引き上げ後の反動減や来期の市場予測、車検台数減など見通しは厳しい」などを理由に、我々の要求に対しては、慎重かつ厳しい姿勢を崩していない。

○こうした中、3月8日の第3回中央闘争委員会において、「賃金改善分については、自らが掲げた要求に沿った回答にこだわり、最大限押し込む」、「一時金については、要求水準への組合員の強い思いを踏まえ、『満額獲得』にむけて最後まで押し込む」、「個別賃金、企業内最低賃金協定、総実労働時間短縮、非正規労働者の取り組みについても、要求実現にむけ全力で取り組む」ことを確認した。

○各単組は、この決意もと、膠着状態を打開すべく、各自の要求の根拠や要求に込めた強い思いを徹底的に主張し、要求実現にむけて職場と一体となり交渉を追い上げている。

## 2. 拡大戦術会議登録組合（12 組合）の回答状況について

○本日 13 時 30 分現在、拡大戦術会議登録 12 組合中 10 組合が回答を引き出した。

### <賃金>

○本日 13 時 30 分までに回答を引き出した全ての組合で、2002 年以降、過去最高水準となる賃金改善分を獲得した。このことは、デフレ脱却と経済好循環にむけた着実な一歩であると同時に、連合、JCM 方針や職場の強い期待などを背景に、労働組合としての役割を一定程度果たし得たものと受け止める。

○また、満額を含む過去最高水準となったことは、これまでの組合員の並々ならぬ努力で積み上げてきた労働の質的向上に対する「評価」と将来にむけた「期待」など、今次交渉を通じて訴えてきた「人への投資の重要性」が回答に表れたものと受け止める。

○同時に、現在の回答引き出し状況が、これから本格交渉を迎える中堅・中小組合の交渉の追い風となり、業種や企業規模の壁を超えて、賃金水準向上の動きが広く自動車産業内外に波及していくことを強く期待したい。

### <一時金>

○本日 13 時 30 分までに回答を引き出している全ての組合で、満額もしくは要求主旨通りの回答を引き出した。水準については、全ての組合が 5 ヶ月以上を獲得しており、3 組合が過去最高の獲得月数となった。企業の体質強化や財務体質改善に貢献してきた組合員の努力・頑張りとその成果に報い、更なる意欲・活力に結びつけるべく、各組合が最大限取り組んだ成果と評価する。

### <その他の取り組み項目>

○回答を引き出した 10 組合の賃金・一時金以外の取り組み回答結果は、次の通りである。

- ・個別賃金については、全ての組合で回答を引き出した。
- ・企業内最低賃金については、昨年同様全ての組合で協定締結を行うとともに、4 組合で締結水準を引き上げた。
- ・組合員化した非正規労働者については、時給や日給の引き上げ、一般組合員に連動した一時金の獲得などの回答を引き出した。また、全ての非正規労働者の職場環境改善や能力開発、福利厚生など、幅広い項目について前進感を持って、引き続き協議を進めていくことを確認した。

## 3. 今後の進め方について

○中小を含めた自動車総連全体の取り組みは、今後、車体・部品部門、販売部門、輸送部門、一般部門がヤマ場を迎える。回答引き出しについては、3 月 12 日（水）から 3 月 21 日（金）の間で集中的に各項目について同時回答を引出し、車体・部品部門については 3 月末決着、販売部門は早期解決に取り組み、自動車総連全体では遅くとも 4 月末までの決着を図るべく最大限努力し、組合員と家族の生活基盤である雇用を守り、生活の安心・安定につながるよう自動車総連全体で交渉の追い上げを図っていく。

○我々自動車総連は、働く者の雇用と生活を守り抜くという大きな使命を背負っていることを強く認識するとともに、2014 年総合生活改善 春の取り組みを通じて、日本経済の持続ある成長と日本の自動車産業基盤を労使の不断の努力によって守り抜いて行くことを確認していかなければならない。

以 上